

福井市の公民館のあゆみ（その8）

12. 「福井学」の誕生と優良公民館の表彰

○平成19年 「福井学」事業開始

福井市では、平成17年度に、郷土の魅力を再確認し、まちづくりにつなげようと、市民でつくる福井学創り懇話会が学びと実践を進める構想案を作成し、平成19年度から「福井学」として事業を展開してきた。各公民館では、歴史・自然・文化・産業・景観・生活などの事象を楽しく学ぶことにより、郷土の個性や魅力を見つめ直し、愛着心をはぐくむ中で、市民一人ひとりが誇りと自信をもって生活していこうとする取組を実施してきた。

この福井学では、平成19～21年度を、郷土を学び福井らしさを再発見するための学習に重点を置いた「学びのステージ」、平成22～23年度は、学習の成果を地域づくりのエネルギーに換え、課題の解決につなげる「はばたきのステージ」として取り組んできた。中央公民館が福井学学習センターとしての役割を担い、地区公民館では、地域ふくい塾・地域子ども塾における学習機会を提供したり、子ども福井学推進協力校に指定した小中学校と連携して、総合的な学習の時間を活用した地域学習を実施したりし、さらに福井学での学習の成果を市民にフィードバックするため、学習成果の発表会を開催した。平成24年度からは、中央公民館の基礎講座・特別講座や、地区公民館における地域ふくい塾・地域子ども塾など、福井学をさらに浸透・定着させ、HP等を活用して内外に向けた情報発信を行い、一層の周知を図ってきた。

○平成21年 湊公民館が優良公民館として、文部科学大臣より表彰

湊公民館は、地域内の各種団体との連携により、「越前湊さくら祭」など地域に密着した特色ある事業を数多く企画・実践し、住民の生涯学習の場として大きな役割を果たしている。「みなと防災まちづくり」として、地元消防団・公民館・学校・事業所が一体となつての防災訓練の実施、避難所を明示した「避難所シール」や福井市内で作製の先駆けとなつた「防災マップ」の全戸配布、湊防災連女性部による一人暮らしお年寄り宅への防火訪問等を実施し、住民の防災意識の高揚を図っている。また、近年は他市の防災先進地区との交流も深めている。

○平成23年 円山公民館が優良公民館として、文部科学大臣より表彰

円山地区は、村部と都市部が共存し、世帯数が急増しているため、地縁関係を深め、誰もが愛郷心を持てるように地域資源、歴史や文化の継承に力を入れている。地域全体で次世代を担う子どもたちを育むための事業として、地区の文化と歴史を継承する活動と同時に、地域の人が講師となり、学業以外の教養も身につけさせる講座「円山コミュニティスクール」を開講したり、若い母親を対象とした子育て支援事業「ちびまるち」に力を注いだりして、その成果が地域に定着している。

○平成24年 森田公民館が優良公民館として、文部科学大臣より表彰

森田公民館では、地元の仁愛女子短期大学と提携を結んだJR森田駅活性化事業や、発掘調査から地域歴史遺産に着目して、地域の偉人である「脇屋義助」の学習や講座を開催するなど、地域活性化に貢献している。また、県内外から集まる釣り人と森田の住民とのサクラマスサミットを開催するなど、公民館が起点となり、地域の各種団体と積極的に連携し、活発にまちづくり活動を展開している。

○平成25年 社北公民館が優良公民館<初代最優秀館>として、文部科学大臣より表彰

社北公民館は、平成15年度からスタートさせた環境学習が、社北環境まちづくり運動に発展し、地域の有志とともに地域ニーズを取り入れた事業を実践してきた。この事業のために、PDCAサイクルを活用した結果、多くの住民が地域の環境を意識するようになり、まちづくり運動や教育事業等でもいくつもの成果を上げることができた。「チャオカード作戦」と題して、地域の親子を対象とした習字や工作、科学実験などの参加体験型学習に挑戦する教育事業を地域の児童館と共催し、毎月1回開催している。事業の運営には中学生や地域の諸団体も携わっており、幅広い世代との交流の場となっている。連携・協働により、様々な立場・世代の多様な視点からのニーズをとらえることができ、公民館事業はもとより、地域づくりのさらなる発展につながっている。